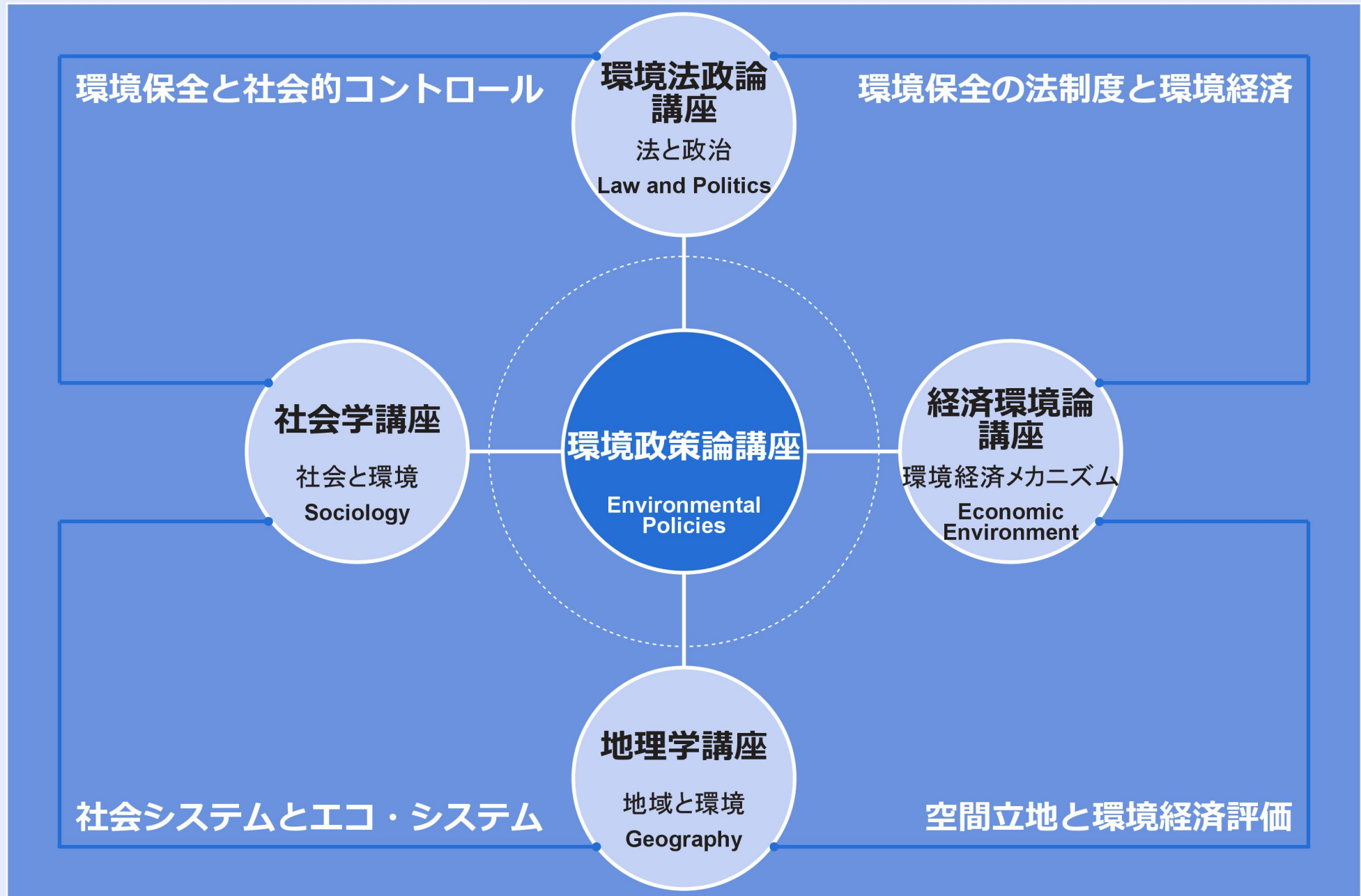


# 社会環境学専攻



*Department of Social and Human Environment*

# 三上直之 MIKAMI Naoyuki

専門分野：環境社会学、科学技術社会論

キーワード：環境ガバナンス、市民参加、ミニ・パブリックス、気候変動と民主主義、民主主義のイノベーション、テクノロジーアセスメント



## 最近の研究テーマ

- 公正な脱炭素化に資する気候市民会議のデザインと日英比較研究
- 「気候民主主義」の日本における可能性と課題
- 脱炭素化技術の倫理的・法的・社会的課題とテクノロジーアセスメント
- 食環境分野への先端技術応用をめぐる市民の熟議
- 科学技術のリスクコミュニケーションの新たな課題と展開



## 主な著書

- ・ 編書
- ・ 訳書



『気候民主主義』



『リスク社会における市民参加』



『「ゲノム編集作物」を話し合う』



『萌芽的科学技術と市民』



『世界に学ぶミニ・パブリックス』



**専門分野：**環境社会学／科学技術社会論

**キーワード：**再生可能エネルギーの社会的受容性／環境保全と地域再生／野生動物と地域社会／持続可能な社会と科学の不確実性

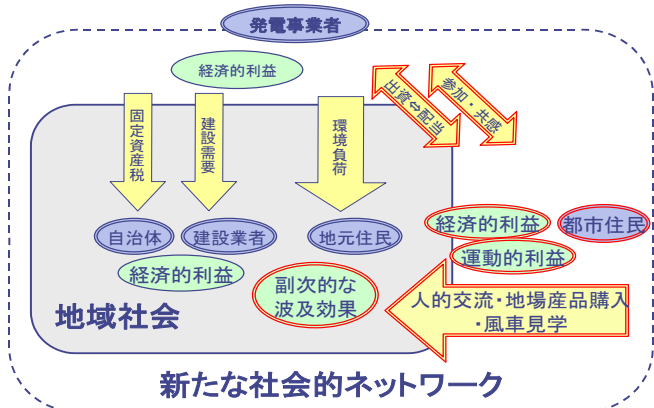
## 【研究内容】

- ・**持続可能な社会と社会的公正**：持続可能性と世代間／世代内の利害対立、全体最適のための誘導的選択肢
- ・**再生可能エネルギーと地域社会**：立地地域におけるリスクと便益の分析、自然共生型再エネの可能性、合意形成の手法やビジネスモデルの開発
- ・**合意形成と市民参加**：環境コミュニティービジネス、再生可能エネルギーの適地抽出と市民参加調査、日本自然保護協会「ふれあい調査」
- ・**環境配慮のジレンマ**：獣害、環境保全型農業、自然再生

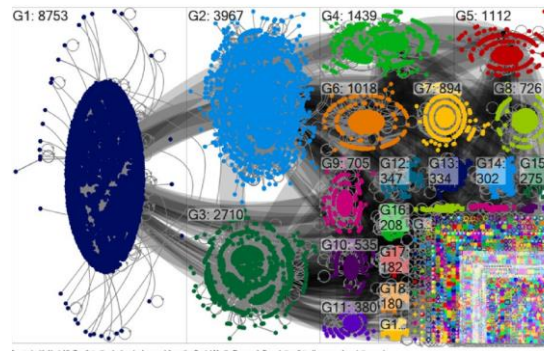
## 【著書】

- ・〈よい再エネ〉を拡大する 法政大学出版局
- ・「シリーズ環境社会学 第二巻・第六巻」新泉社(分担)
- ・どうすればエネルギー転換はうまくいくのか 新泉社
- ・どうすれば環境保全はうまくいくのか 新泉社(分担)
- ・なぜ環境保全はうまくいかないのか 新泉社(分担)
- ・再生可能エネルギーのリスクとガバナンス ミネルヴァ書房
- ・再生可能エネルギーの社会化 有斐閣
- ・環境の社会学 有斐閣
- ・サルと人間の環境問題 昭和堂

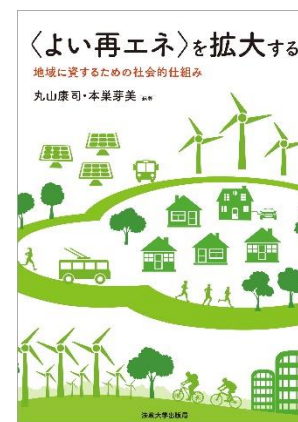
ほか



市民出資型エネルギー事業の波及効果



SNSにおける反再エネ言説の拡散過程



中野 牧子 Makiko NAKANO



**専門分野:** 環境経済学

**キーワード:** 持続可能な消費、環境配慮行動、環境イノベーション、生産性分析

**【研究方法】**

統計学や計量経済学に基づき、定量的なデータ分析を行う実証分析が中心

**【研究の概要】**

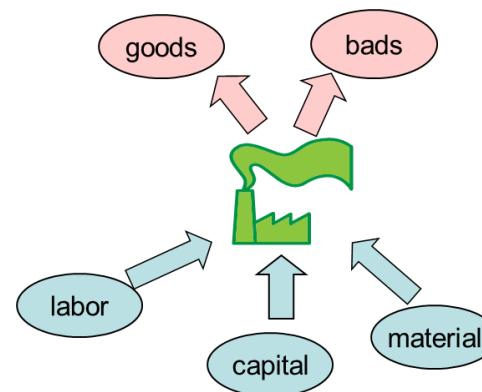
- 企業の環境問題への取組を促進する要因や取組の効果を調べる研究。
- 消費者の製品選択(どのような製品を購入したいか、どのような企業から購入したいか)における環境問題等への選好を調べる研究。

**【最近の具体的な研究テーマ】**

- ISO14001環境マネジメントシステムと環境イノベーションの関係
- 企業の情報開示と経済パフォーマンスの関係
- 植物肉などの代替タンパク質に対する消費者の選好
- 環境問題を含む広範な社会的責任の問題への企業の取り組みに対する消費者の選好

**【最近の大学院生の研究テーマ】**

- 中国における炭素取引が森林カーボンシンクに与える影響に関する研究
- 日本におけるVehicle-To-Gridの導入に向けたインフラ整備に対する支払意志額の推定
- 企業の非財務パフォーマンスとSDGsに関するイノベーションの関係
- ベスト・ワースト・スケーリングによる食肉代替品の日本における消費者の選好評価
- Evaluating public preferences for autonomous buses in Japan using best-worst scaling





専門分野: 地理学 / コミュニティ論 / 災害社会論

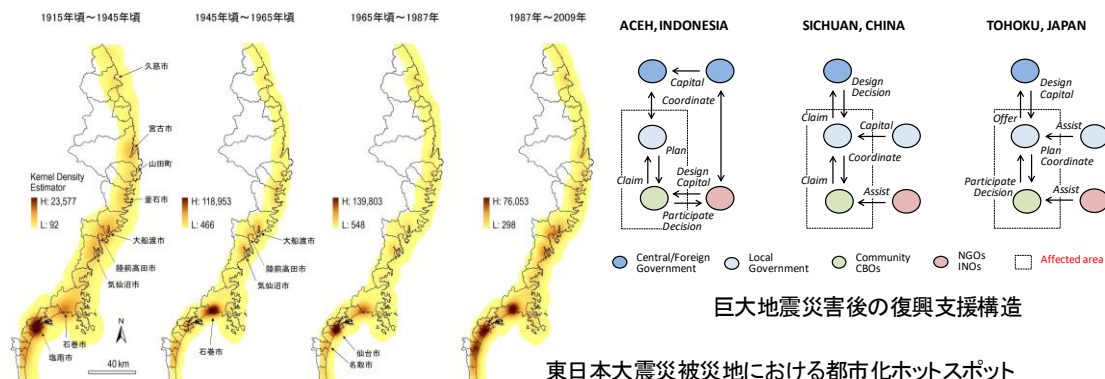
キーワード: 農村と都市の地域開発とコミュニティ / 自然災害とリスク・ガバナンス / 防災リテラシーとコミュニティ防災

【最近の研究内容】

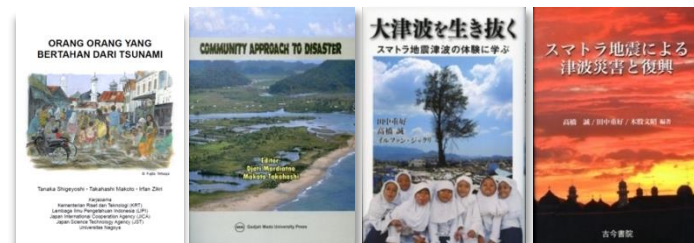
- 津波による人的被害の地域差はなぜ生じたのか？
  - スマトラ地震における人的被害の拡大要因、科学知と地域知
  - 東日本大震災における被害構造、避難行動、地理学的想像力
- 人びとはなぜ危険なところに住んできたのか？
  - 東日本大震災被災地における過去100年間の土地利用変化
  - 伊勢湾台風被災地における災害暴露性の増大とコミュニティ防災
- 災害復興は地域の社会経済構造の変動をもたらすのか？
  - 多層的災害復興モデルによる巨大地震災害の国際比較
  - 途上国における地域開発と被災経験の災害リスク軽減への埋め込み

【最近の大学院生の研究テーマ】

- 地理的表示保護制度登録産品と地域性との関連 (P)
  - ウランバトルの都市拡大と河川水質管理の課題 (P)
  - 濃尾地震における旧日本陸軍の支援活動 (P)
  - マレーシアにおける洪水管理と住民のリスク認知 (G)
  - 小規模水害への住民対応の失敗と行政的課題 (G)
  - 水道事業における水源管理と住民主体の地下水保全 (G)
  - マルチエスニシティのコミュニティベースの教育活動 (G)
  - 感染症拡大下での都市空間における人間活動と行政介入 (G)
- (P: 環境政策論講座、G: 地理学講座)



【最近の主な編著書】



災害と社会研究グループ/コミュニティ防災研究会  
[www.geog.lit.nagoya-u.ac.jp/makoto/sumatra.html](http://www.geog.lit.nagoya-u.ac.jp/makoto/sumatra.html)



## 専門分野: 経営学／経営組織論

キーワード: 新制度派組織論／サステナブル・アントレプレナーシップ  
／ ソーシャル・エンタプライズ／持続可能な社会と企業経営

### 【研究内容】

- ・多様なロジックが併存する組織フィールドにおいて、新たな組織形態や実践は、どのように制度化されていくのか。支配的な制度ロジックに対して、周縁的なロジックに基づくイノベーションは、どのように正当化され、普及していくのか
- ・サステナビリティを主導する企業家は、経済・社会・環境などの競合するロジックをどのようにマネジメントし、ビジネスモデルを構築していくのか。また、そのプロセスにおける、特徴的な意思決定のパターンはどのようなものなのか。

### 【著書・論文等】

- ・感染症時代の経営学 千倉書房 2020年(共著)
- ・表象の組織論 中央経済社 2016年(共編著)
- ・社会環境学の世界 日本評論社(共著)
- ・アジアの経済発展と環境問題 明石書店(共著)
- ・コミュニティ・ラーニング ナカニシヤ出版(共編著)
- ・“How digital platform leaders can foster dynamic capabilities through innovation processes: the case of taobao” *Technology analysis & strategic management*, 2020 (共著)

ほか

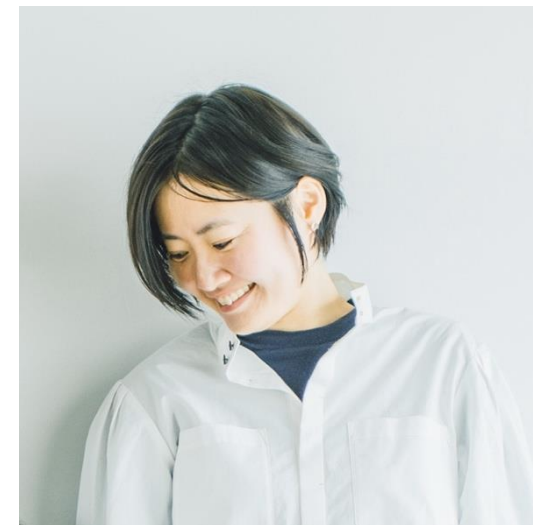
### 【最近の大学院生の研究テーマ】

- ・NPO経営の継続的変革プロセス
- ・組織におけるインフォーマルな影響力の分析
- ・日本企業の産学共同研究とダイナミック・ケイパビリティ
- ・社会的インパクト創出に向けた伴走支援のあり方に関する考察
- ・非公式ネットワークが社員のイノベーション行動に与える影響に関する研究
- ・着地型観光のビジネス・エコシステムの構築



## 専門分野：環境社会学／農業分野のトランジション研究

キーワード：マルチステークホルダー、厄介な問題、サステナビリティ・トランジション、農業技術開発マネジメント、Visual Problem Appraisal、参加型アクションリサーチ



### 研究テーマ

#### ■農林水産業の「厄介な問題」

- 自然資源と生業に関わる問題について、参加型アクションリサーチと音声映像メディアを用いた包摂的な問題認識の把握
- 利害関係者と共に問題を探り、実践的解決策を共創するプロセスの研究

#### ■超学際研究における関係者の認識のズレの可視化と調整

- 農業・食分野のサステナブルに資する技術開発プラットフォームにおける解釈のズレの研究
- 環境問題や技術導入における関係者間の解釈の差異に焦点を当て、それを可視化した上で協働するための手法の開発

#### ■持続可能性に関する人材育成手法の開発

- 持続可能な社会への移行を担う人材育成において、問題のフレーミングの調整が果たす役割の研究
- 異なる分野・立場の人々が協働するための手法の開発と実践

### 論文

- ・ “Toward the concurrent self-evaluation of solidarity in platform-based development: a case study of discrepancies among technological interpretation in Japan” (Environment, Development and Sustainability, 2024)
- ・ 「フレーミング調整に着目したサステナビリティ人材育成」『環境科学会誌』2024年

